

(86号)

中国シルク情勢 (2017年11月)

日 絹 連

ISU国際シルク連盟会員大会が10月20日杭州で開かれた。イタリア、フランス、スイス、ポーランド、インド、ベトナム、ブラジル、タイ、日本、インドネシア、中国など94社の企業代表者が出席し、李継林連盟主席が創立後の2年間の活動状況、現時点の重点事項及び2018~19年度の計画などを出席者へ報告した。

中国シルク協会会長、国際シルク連盟名誉主席楊永元氏、中国シルク博物館長趙豊氏、イタリアシルク協会 Giuseppe Bianchi 会長、フランスシルク協会 Xavier Lepingle 主席、カンボジア代表の方々は、シルクの現状と展望について、それぞれ発言し、最後に李継林氏は下記の通り纏めた。

1. シルクが人類の共同財産とし、シルクロードによって人類文明、多国文化を融和し、人類の歴史に重い燦爛な1ページを残せれるようにする。
2. 中国が主導している“一帯一路”の趣旨が本質で新しい世界連通の貿易ルート、合作の路、共栄の路、平和の路を開拓していく上で全世界共同発展のチャンスである。
3. 国際連盟会員たちがお互いに交流して商工連携、投資促進により、世界シルク事業の継続的に健全な発展に貢献する。
4. 連盟には歴史文化、教育科学研究、技術創造、ファッションデザイン、貿易製造の5チームがあり、それぞれの課題に対して成果を上げる。
5. 連盟が世界シルク産業発展の課題と注目点を監視し、資源の総合の調整、相互の協力により課題解決に向けて努力する。
6. 連盟がシルク生産消費国には各レベルでの交流と信頼を作り、各国政府からシルク産業へ重視していく。

などの「世界シルク杭州共同認識」を纏めた。

次の会員大会は2019年に開催予定。(詳細は世界シルクネット www.worldsilk.com.cn/)



ISU国際シルク連盟は10月21日に“継続的に発展可能なシルク”を首題として、セミナーを開催した。セミナーではイタリアシルク協会秘書長が冒頭で、生糸相場がこんなに暴騰するのか？この数年、中国が発表した繭と生糸の生産量が誇大ではないのか？を指摘し、中国側へ正確な数字を求めた。これに対して、中国シルク協会の機屋を代表して湖州織物協会の凌蘭芳会長が次のように説明した。

1. シルク協会が発表した桑園面積、繭生産量、生糸生産量と実際の数字との差が大きい。

現在、年の繭生産量が60万トン未満と思う。生糸生産量も6万トン余りしかないと思う。

2. この数年、中国の土地価格や労働者の賃金などが大幅に上がっているが、繭価格はあまり変わらないので安すぎではないか？農家の繭生産意欲が年々低下している。繭値を上げないと急速な減産となってしまう。大幅に繭値を上げてこそ、中国シルク内需に大きな意味があると考える。
3. 昨年以來、シルク内需が急速に成長している。ネットなどのシルク交織織物需要で生糸が一気に不足し、来年の春繭が出るまで生糸相場の上昇が止まらないと思う。
4. 業界内の労働力不足が深刻で、養蚕、製糸、機屋、染色、縫製なども同じ状況である。
5. シルク業界の各段階での生糸在庫が殆どない。国家準備2,000トンぐらいあるが、放出しても、あまり改善されないのではないかと今までにない強みを述べながら生糸の品質を心配していると意見もあった。

会議では生糸電子検査の方法について、早く実行できるよう中国生糸商検検査センターへ要請した。ブラジル、イタリアの代表は、シルク生産は環境への貢献が大きいという社会的な認識もアピールした。



(左一はフランス Xavier Lepingle 主席、左二は李繼林主席、右一は Giuseppe Bianchi 会長、右二は凌蘭芳会長、真ん中は費建明連盟秘書長)



10月の中国繭生糸相場について、嘉興・南寧取引所は毎日ジワジワと上がっており、3～4Aの生繭生糸相場は来年3月渡しで48万元/トンを超え、場外の乾繭生糸は既に49.5～50万元/トンで取引されている。5～6Aの経糸は51～52万元/トンで取引していて、ドルに換算すると、緯糸が67～68ドル、経糸は71～73ドルである。

史上初のブラジルを越えた価格となっている。絹織物価格も大幅に上昇し、74cm幅の12匁羽二重が5ドル台へ突入した。

最近、生糸以外の絹紡糸、撚糸加工賃、染色代、段ボールなどの値段もジワジワと上がっている。今後の品質管理、納期管理などの面に十分な注意が必要であると思われる。

以 上